

# 第2次黒部総合振興計画審議会

## 第3回第2部会【産業・観光】

### 議事概要

日時：平成29年6月28日（水）14:00～

場所：黒部市役所 203 会議室

出席者：委員7名（欠席1名）、専門委員1名（欠席なし）

幹事1名（欠席なし）、計画主任4名（欠席なし）、事務局4名

#### 次第

1. 開会
2. 部会長あいさつ
3. 報告事項
  - （1）前回審議会以降の経過について
  - （2）各委員からの意見・提言について
4. 協議事項
  - （1）施策区分別の個別事業について
  - （2）各個別事業の協働体制、市民等へのメッセージ、主な指標と目標値について
5. その他
6. 閉会

### 主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

#### 部会長あいさつ

○部会長：本日はご多用中にも関わらず、第3回部会にご出席いただき感謝申し上げます。本日の部会は平成29年度の最初の部会である。昨年度は、基本構想を中心に審議してきたが、本年度は基本計画を中心に議論いただきたい。先日の審議会において今年度のスケジュールが示されたが、11月16日の第2次黒部市総合振興計画の取りまとめに向けて、部会は全3回開催される予定である。黒部市の未来に向けた計画策定にご協力いただきたい。

## 報告事項

(資料1：前回審議会以降の経過について、  
資料2：各委員からの意見・提言について、事務局より説明)

委員からは特に意見なし

## 協議事項

(資料3：施策区分別の個別事業について、事務局より説明)

- 部会長：内容が多岐にわたるため、まずは農業分野について意見をいただきたい。
- A委員：概ね網羅されていると思う。計画から実行に移す時の手法が今後の課題になるかと思う。
- 部会長：工業や商業等の分野はいかがか。
- B委員：経営安定化対策事業における「中小企業融資保証料等に対する助成および事業後継者の育成支援」の事業概要は、補助メニューを限定して記載されている。今後、新規の補助メニューが導入された場合や黒部市のみが実施していない利子補給事業が実施されることを想定して対応できるように記載してほしい。
- 事務局：個別事業の概要には内容が理解しやすいよう具体的な名称を用いて記載しているが、個別事業には「等」を用いて新規メニュー等に対応できるようにしている。実際に公表されるのは個別事業名のみであり、事業概要は公表されないので問題ないかと思う。
- 部会長：利子補給事業が黒部市のみ実施されていない理由はなにか。
- 計画主任：市にて制度を設けなくても他に利子補給の制度があり、財政当局の判断にて実施していない。毎年、商工会議所から要望はいただいているので今後、必要に応じて検討していきたい。
- 部会長：人手などがかからないのであれば、前向きに検討してほしい。
- B委員：工業においては海外進出が多くなってきており、ジェットロやジャイカの事業を進める事例も増えている。海外進出に対する支援を検討してほしいと思う。
- 部会長：海外進出に対する支援については、市の単位で実施するか疑問に感じる。
- 計画主任：部会長のおっしゃる通り、市レベルでは、なかなか難しい。県では東南アジア等を中心に窓口を設けており、必要に応じて県と連携しながら検討していきたい。

- 部会長：姉妹都市であれば、何かしらの対応ができるかもしれない。
- B委員：農水分野において、海外への輸出を視野に入れれないといけない時代になると思う。産業全体に係る話として海外進出への支援に関する項目が必要かと思う。
- C委員：県においても総合計画、農業計画の見直し時期にある。農業分野においては国の事業を活用して施策を展開しており、先が見えにくく難しい。参考として、新しい事業等を少し、ご紹介したい。食品の安全性を確保するための GAP 認証制度や IoT 技術の導入のほか、担い手の育成として 50ha 以上の農地数やブランド化に向けた米の輸出量を目値とすることが挙げられる。その他にも県レベルの話かと思うが、食品ロスも新しい取組かと思う。長期的な計画であるため、具体的な内容を細かく書き込まずに方向性を示すことで対応することが良いかと思う。
- D委員：商業分野において、事業内容が代わり映えしない。これまでも中心市街地の活性化や空き店舗対策に力を入れていくと言いつつも、実際には改善されていない。商店街の対応にも問題はあると思うが、市も財源等を理由に手をこまねている。重点としての位置づけるにあたり、金を出すのか知恵を出すのかなど、市の考えを聞きたい。これまでと変わらず、何もしないなら書かなくてもよい。
- 計画主任：市としては事業承継について、力を入れていきたいと考えている。また、若い方・女性の出店等に対する支援の充実に努めたい。
- D委員：空き店舗について、問い合わせはあるが、建物規模やトイレ等の設備の使い方など、貸し手と借り手のニーズが合わない。坪数が大きいものは分割して貸し出すなどの手は考えられるため、お互い連携して進めていきたいと思う。
- C委員：県の話となるが、計画には大きな方向性を示し、具体的な内容については年度予算のタイミングに合わせて示していく流れである。先ほどのD委員の話は年度予算レベルまで詰めてないと書ききれない話かと思う。
- D委員：具体的に何をやるまで詰めなければ何も変わらないと思う。
- 事務局：5年後、10年後まで見通して具体的な事業を網羅して記載することは困難であり、長期計画の性質上、どうしても方向性を示すことに留まってしまう。D委員からの具体的な新規事業については、毎年、予算要求して、実施に展開していくことになる。
- D委員：これまで、実施してきていないから同じことを何度も記載していかないといけないのではないか。
- 部会長：民間は利益目標を定めた上で達成するための具体的な取組を設定していくが、行政は数字で割り切れない部分があり、腑に落ちないのかと思う。
- 事務局：4月の全体会議で財政見通しを示している。その枠の中でできることを盛り込んでおり、個別事業の下には、さらに詳細な事業が紐付いていくということである。
- D委員：総合振興計画に記載している以上、担当課が責任を持って実行に移すようにしてほしい。
- A委員：がんばる商店街支援事業のがんばる商店街とは意欲の高い商店街を意味して

いるのか。

- D委員：商店街も行政が何かしてくれると思っている一面もあり、自発的な行動を促すための事業かと思う。
- C委員：事務局からの説明にもあったように、大きな方向性の下に複数の事業が連なり、各事業の成果の状況を見て適宜、変更していくこととなる。方向性は同じ表現であっても実際に実施することは異なるため、新たなキーワードを盛り込むなど、表現を工夫することがポイントになるかと思う。
- E委員：数年後に道の駅が完成する予定であるが、生産者の準備も必要である。可能な限り、黒部市産の農産物を並べたいと考えているが、品目が多くなることを想定すると試行期間が必要であり、そのための支援事業を盛り込んでほしい。
- 部会長：道の駅は、どの部会が担当しているのか。
- 事務局：第3部会で施設について審議している。
- B委員：以前にも話にあったが、道の駅は様々な要素があると思う。E委員の話のとおり、準備段階の視点は重要かと思う。
- E委員：農産物は天候等にも左右されるため、準備期間に対する支援が必要である。
- 計画主任：E委員のご指摘のとおり、農業については一朝一夕でできることはない。道の駅についての支援ということではなく、本市の農業政策として穀作主体からの転換が最重点課題と捉えており、園芸作物に関する支援は各事業メニューに散りばめているので安心していただきたい。
- 部会長：道の駅については、どのように進んでいるか見えていない。道の駅に導入する商品については第2部会が担うところは大きいと思う。
- F委員：道の駅については、市全体の状況を踏まえ、情報発信機能や食事場所としての機能等について検討していかなければならない。
- A委員：農産物について、全体の中に含まれていると思うが、加工施設の視点も重要である。
- 部会長：その他、意見が無いようであるので、次に進む。

(資料4：各個別事業の協働体制、市民等へのメッセージ、主な指標と目標値について、事務局より説明)

- 部会長：漁獲量はトン数で設定されているが、獲れるものによって単価が異なる。例えば、マグロに換算するなど丁寧なものがあれば良いと思うが。
- C委員：県では、1つの目標指標だけでは説明しきれないため、関連指標を合わせて把握するようにしている。換算数値などの数字を出すことは可能かと思うが、数字自体が分かりにくくなるため、正式な統計を用いる方が良いと思う。

- 部会長：入善町では、以前までキスやヒラメが取れていたが、今は獲れないようである。10年後も変動要素が少ない指標が必要かと思う。
- 事務局：後期基本計画を策定する際には目標指標を含め、見直すこととなる。
- B委員：意味をなす指標かどうかを考えなければならない。漁業においては漁船が減ってきていることが大きな問題であり、それに伴い漁獲量も減少するかと思う。また、旅館についても同様のことが言えるかと思う。
- G委員：おっしゃる通りかと思う。旅館の場合、金額を落とせば、宿泊者数を増やすことができるが、存続できなくなる。むしろ、満足度の高い宿泊客数を把握することが重要である。
- F委員：客室の稼働率を見ていかなければならないとも感じた。富山市のホテルは稼働率が7割程度であり、ツインの部屋が少ないことが要因とのことである。東京中心部ではデユースにより100%を超えるようである。
- G委員：国は東京オリンピックまでに訪日外国人4,000万人を目標にしており、日本を訪れるクルーズ船の中には一度に6,000名ほどが寄港する場合もある。クルーズ船の誘致やLCCの増便など、施策を進めている。
- 部会長：これまで通りの物差しでは対応しきれないことも想定されるということかと思う。
- B委員：一つの指標で全体を網羅することは難しいかと思う。企業の本社機能の移転に対する支援数を指標に挙げているが、本社機能の移転も含め、市外から市内に移ってくれた企業としたほうが分かりやすいと思う。
- D委員：毎年、目標値のチェックはしているのか。
- 事務局：実施している。
- A委員：農業関係の指標は農業総生産額としなくても良いのか。
- C委員：調査が非常に大変かと思う。国の調査においても市町村の値は推計でしか出していないと思う。県では大きなテーマに関する目標指標に農業算出額を設定し、その下に農地集積率や担い手育成を指標としている。やはり、大きなテーマについては、他県との比較も考慮して国の統計調査で把握できる項目を設定している。また、有害鳥獣被害などの自然環境等に応じて年次変動が激しい項目は少し検討が必要かと思う。食料自給率は、米の自給率が200%を超えており、非常に高いため、県では園芸生産額を内部の副指標として把握している。やはり、市民への説明責任を考えると分かりやすいものが良いと思う。
- F委員：DMOにて観光客の消費額について問い合わせをしている状況にあるが、数字の取り方によっても大きく異なると感じている。
- 部会長：その他、意見はないか。特に無いようであるため、その他について事務局より説明を願う。

(次回の部会について、事務局より説明)

委員からは特に意見なし

- 部会長：全体を通して意見等はあるか。
- 経済産業部長：先ほどからの皆様方の意見を聞き、産業セクションを統括する立場として話をさせていただきたい。D委員からの個別事業の重点メニューに対するご指摘について、あくまで事業メニュー単位での位置づけであり、個別事業単位での位置づけではないことをご理解いただきたい。また、これまで計画に挙げていても改善されていないとのご指摘であったが、やる気がないということではなく、予算や取組方法などの問題があったのだと思う。そのことを持って重点にしなくても良いということではないと思う。ぜひ、委員の皆様には、プロの見識から個別事業名や目標指標に対する具体的な提案をいただきたい。最終的に目的に応じた事業名と効果的な目標指標を検討し、精度を高めていきたいと考えている。ただ、目標指標については、継続的に数値を把握できる視点を踏まえ設定したい。
- D委員：実施できるよう努力をしてほしい。いつまでも「お金がない」「力が無かった」等の言い訳はしないように対応してほしい。

## 閉会

- 事務局：以上をもって、第3回部会を閉会する。第4回審議会部会は、7月31日(月)15:30から開催する。

以上